

24 kWレーザー加工機導入

かねよし、受託加工領域拡大

【さいたま】かねよ指す。

し（埼玉県川口市、吉田電一社長）は、約2億5000万円を投じて24キロワットの高出力ファイバーレーザー加工機を本社工場に導入し、このほど稼働した。同社によると24キロワット級の導入例は国内でも珍しく、東日本では第1号という。各種受託加工業務の厚板加工を強化する。加工領域を広げ、さらなる成長を



独トルンプ製のレー

ザー加工機を導入した。対応板厚は最大40

ミリ。従来は出力10キロワット機が保有設備で最も高出力で、対応板厚は最大約30ミリだった。かねよしは1953年設

立。金属のレーザー切断・複合加工や曲げ加工、溶接・表面処理を手がける。2024年5月期の売上高は約13億円。積極的な設備投資で加工領域を広げて顧客を拡大し、顧客数は10年前の約2・5倍増の約1500社となっている。現在、溶接・組み立て工程を担う新工場を本社近くに建設中で、25年に稼働する予定だ。吉田社長は「金属加工であれば何でも対応できる会社にしていきたい」と意気込んでいる。

かねよしが入力した24キロワットの高出力レーザー加工機